

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

【めざす学校像】

- 校風・校是「自由と創造」「日新日進」のもと、生徒一人ひとりが自分の色を輝かせ、他者を思いやることにより、全体で虹の架かる学校
- 将来の「大阪」とグローバル化に対応する人材と「大阪の教育」をリードする教員が育つ学校
- 生徒・保護者・地域住民から信頼される学校

【生徒に育みたい力】

- 強靱な知性・みずみずしい感性・品格ある人間性
- 確かな学力（自己実現のための学力、知的好奇心、探究心 等）
- 生きる力（客観的事象分析・問題解決能力、意見表明・プレゼンテーション能力 等）
- 豊かな心（生命・人権の尊重、規範意識、異文化理解、多文化共生 等）
- 社会参加力（社会参加、社会貢献 等）

2 中期的目標

1 確かな学力と高い志を育み、進路実現をめざす取り組みの推進

(1) 生徒のもつ学力を最大限に引き出す

ア 確かな学力の充実と進路実現

効果的な補助教材の作成、教員の指導技術の一層の向上に努めるとともに、新学習指導要領、高大接続改革に対応するため、1人1台端末や学習支援クラウドサービスの活用を含めた、「主体的・対話的で深い学び」の推進と大学進学実績向上の両立をめざす。

*全項目平均値（R2:3.36、R3:3.45 R4:3.42/4点満点）を、令和6年度まで3.2以上、項目8・9（内容に興味・関心が持てた・知識や技能が身についた）の平均点（R2:3.34、R3:3.44 R4:/4点満点）を3.2以上で維持する。

*生徒向け学校教育自己診断のICT活用に対する満足度（R4:68%）を、令和6年度までに75%以上にする

イ 講習・補習の充実

放課後、土曜日、長期休業中等の講習内容を充実させ、進路実現に向けた指導を行う

*難関国立大学（京都大、大阪大、神戸大）への合格者数（現役生+既卒生/R2:53人、R3:68人、R4:76人）を、令和6年度までに80人以上とし、一層の増加に努める

*国公立大学への現役生の合格者数（R2:141人、R3:163人、R4:166人）を、令和6年度まで130人以上で維持し続ける

ウ 英語運用能力の向上

英語での授業を基本としつつ、外部試験等を活用し、英語コミュニケーション能力の目標を明確に示すことで、生徒の英語運用能力を総合的に高める

*より実用的な英語運用能力の育成のため前年までのGTECに代えて、実用英語技能検定での上級資格の取得をめざす。

*KITEC（ネイティブスピーカーの方々を多数招聘し、少人数に分かれて一日英語漬けで会話能力の向上をめざす企画）を継続し、KITECを通して、英語に対する興味・関心、運用能力が向上したと回答した生徒の割合（R2:93%、R3:95%、R4:95%）を95%以上で維持し続ける

(2) 生徒の科学的素養を拡大・定着させ、探究心を高める

ア 文理学科「課題探究講座」（文系・理系・文理融合）の内容のさらなる充実と全校生徒での共有

*2年生の「課題研究」に対する満足度をさらに高めるとともに、課題研究発表会の生徒参加数（R2:720人[発表会はR3に延期]、R3:720人、R4:720人）を、令和6年度まで700人以上で維持する

イ 創造探究事業（大学や企業・研究機関との連携）の内容の充実

*文理学科1・2年生の外部連携事業への延べ参加者数（R2:1,827人、R3:1,950人、R4:1,945人）を、令和6年度まで1,500人以上で維持し続ける

ウ 海外の学校等との交流の推進

海外の学校等との共同研究や共同発表会等を実施するなど、交流内容をさらに充実させる

*交流日数（R1年度:8日、R3:3日、R4:4日）について、令和6年度まで4日以上行い、さらなる内容の充実を図る

(3) 進路指導のさらなる充実

ア 自己実現に向けた体験型進路学習（職場訪問、大学研究室訪問）の充実

1年生は、望ましい職業観・勤労観を育成することを目標に、訪問時のインタビューの精度を高めるとともに、プレゼンテーションの質的向上を図る

2年生は、大学における学問・研究に対する理解促進を目標に、生徒同士が学んだ内容について実施するポスターセッションの質的向上を図る

*1・2年生とも訪問先（1年生R2:63カ所、R3:63カ所、R4:63カ所 2年生R2:46カ所、R3:51カ所、R4:52カ所）を、令和6年度まで各50カ所以上、生徒満足度（R2:97%、R3:98%、R4:96%）を90%以上で維持し続ける

イ 3年間を見据えたキャリア教育の充実

学校として確立した進路指導方針（高津進路プログラム:KSP）に基づき、学年の進路指導ホームルームや進路説明会をより系統的に計画・実施する

*学校教育自己診断の進路指導への満足度（生徒R2:91%、R3:93%、R4:91%・保護者R2:75%、R3:79%、R4:79%）を、令和6年度までともに80%以上で維持する

2 スクールアイデンティティに基づく、豊かな心の育みと規律・規範の確立

(1) 人権尊重と社会参加力の育成

*学校教育自己診断の人権に関する指導に対する肯定率（生徒R2:89%、R3:92%、R4:86% 保護者R2:83%、R3:83%、R4:82%）を、令和6年度まで、生徒90%を維持しつつ、保護者85%以上に引きあげる

*部活動参加生徒による「高津キャラバン隊」の実施クラブ率（R1:100%、R3:28%、R4:91%）を、令和6年度まで90%以上で維持し続ける

(2) 自主的活動と規律・規範意識の向上

*部活動加入率（R2:89%、R3:86%、R4:85%）を、令和6年度まで85%以上で維持し、一層の増加に努める

*生徒向け学校教育自己診断の自治会活動に対する肯定率（R2:72%、R3:79%、R4:70%）を令和6年度まで75%以上を維持する

*年間の遅刻者総数（R2:2,377件、R3:2,264件、R4:2,663件）を令和6年度までに2,000件以下とする

(3) 安心で安全な学校環境

*生徒向け学校教育自己診断の保健室利用、教育相談に対する満足度（「わからない」を除く/R2:89%、R3:90%、R4:90%）を令和6年度まで85%以上で維持する。

3 教職員の資質向上と学校運営体制の確立

(1) 学校の組織的運営、校務の効率化及び情報共有

*教職員向け学校教育自己診断の各分掌や学年・教科等の円滑な連携等に対する肯定的意見（R2:85%、R3:62%、R4:62%）を、令和6年度までに85%以上とする

(2) 開かれた学校づくりの推進

*生徒による社会体験・貢献活動（ボランティア講座、支援学校との交流、部活動参加生徒によるキャラバン隊 等）をさらに活性化させる

<p>*本校が行っている教育活動について、学校説明会や学校HP等を通じて、中学生やその保護者に積極的にアピールする</p> <p>*中学校や大学との連携を積極的に行い、開かれた学校づくりを推進する</p> <p>(3) 教員の資質向上とミドルリーダーの育成</p> <p>*教職員向け学校教育自己診断の校内研修に関する肯定率 (R2:90%、R3:76%、R4:75%) を令和6年度までに80%以上とする</p> <p>*教職員向け学校教育自己診断のミドルリーダー育成に関する肯定率 (R2:81%、R3:62%、R4:80%) を令和6年度までに75%以上とする</p> <p>(4) 「働き方改革」の流れを踏まえた、(校内)安全衛生委員会機能のさらなる向上</p> <p>*教職員向け学校教育自己診断の教育活動に関する悩みや疑問の気軽な相談についての肯定率 (R2:79%、R3:66%、R4:81%) を、令和6年度までに75%以上とする</p>

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
1 確かな学力と高い志を育み、進路実現をめざす取組みの推進	(1) 生徒のもつ学力を最大限に引き出す ア・教員の指導技術の向上 イ・講習・補習の充実 ウ・英語運用能力(4技能)の向上	(1) ア・新学習指導要領、高大接続改革に対応するため、1人1台端末や学習支援クラウドサービスの活用を含めた、「主体的・対話的で深い学び」の推進と大学進学実績向上の両立をめざす。 イ・土曜講習、放課後・長期休暇の講習の充実。自習室の活用。 ウ・1・2年生全員を対象に、実用英語技能検定を活用して英語運用能力の向上を図る。 ・KITECを実施し英語会話能力の向上をめざす。 ・国際交流センター留学生との語学交流事業GULSを継続する。	(1) ア・教職員向け学校教育自己診断の「さらなる指導技術の向上」に関する項目の肯定率[93%]を90%以上とする。 イ・1年生の土曜講習全員参加、2・3年生の参加率の維持。自習室の維持。 ウ・KITECを通して、英語運用能力が向上したと回答した生徒の割合[95%]を95%以上とする。 ・語学交流事業GULSの生徒満足度[92%]を90%以上で維持する。	
	(2) 生徒の科学的素養を拡大・定着させ、探求心を高める ア・課題研究の充実 イ・創造探究事業の継続 ウ・海外の学校等との交流の推進	(2) ア・課題研究の充実をはかり、1・2年生の全員を対象とする。生徒の満足度の向上をはかる。 イ・本校独自の事業の他、他の団体等の事業への生徒の参加を促し、幅広い能力の向上を図る ウ・海外の学校等との共同研究や交流を積極的に推進	(2) ア・参加生徒数700人以上を維持。生徒満足度の向上 イ・創造探究事業への延べ参加人数[1,945人]を1,500人以上 ウ・オンラインを活用した交流[4日]を4日以上、参加生徒の満足度[95%]を90%以上。	
	(3) 進路指導のさらなる充実 ア・体験型進路学習の一層の充実 イ・キャリア教育の充実	(3) ア・交流対象校と交流内容とともに、より継続的かつ双方向的な交流へと充実を図る。 イ・生徒・保護者に対して3年間を見通した進路指導計画を提示し、理解を得る	(3) ア・体験型進路学習に対する生徒の満足度[96%]を90%以上で維持する。 イ・学校教育自己診断の進路指導への満足度[生徒91%・保護者79%]を、80%以上。	
2 豊かな心の育みと規律・規範の確立	(1) 人権尊重と社会参加力の育成	(1) 人権を尊重し、社会への参加の意識を醸成する	(1) 学校教育自己診断の人権に関する指導の肯定率[生徒86%・保護者82%]をともに85%以上とする。高津キャラバン隊の参加率100%	
	(2) 自主的活動と規律・規範意識の向上	(2) 部活動・自治会活動など生徒の自主的活動を支援。生徒の規律を重んじ規範を守る心を育てる。記念祭での三部会(教員・自治会・生徒)での運営の維持	(2) 部活動加入率[85%]を85%以上、自治活動に関する肯定率[70%]を80%以上、記念祭の満足度[93%]を95%以上、遅刻者数[2,663件]	

	(3) 安心で安全な学校環境	(3)保健室・相談室などの生徒に対する心身の健康を維持する環境の充実	を2,000件以下にする。 (3)生徒向け学校教育自己診断の保健室利用、教育相談に対する満足度[90%]、保護者の学校への相談に対する満足度[86%]を、ともに維持する。	
3 教職員の資質の向上と学校運営体制の確立	(1) 学校の組織的運営、校務の効率化及び情報共有 (2) 開かれた学校づくりの推進 (3) 教員の資質向上とミドルリーダーの育成 (4)「働き方改革」の流れを踏まえた、安全衛生委員会の機能向上	(1)意思決定経路を明確にし、教職員の学校運営への参加の意識を促進する。 (2) 本校が行っている教育活動について、学校説明会や学校HP等を通じて、中学生やその保護者に積極的にアピールする。また、中学校や大学など他校種との連携を行う。 (3)教員間の授業交流の促進、研究授業・協議を一層活性化させ、さらなる授業力向上に努める。 生徒による授業評価(年2回)や授業公開等を実施し、その結果を教員・教科にフィードバックし、授業改善に生かす。 (4)「働き方改革」の流れを念頭に、快適な職場環境の形成とともに教職員の意識を醸成する。	(1)各分掌や学年・教科等の円滑な連携等に対する肯定的意見[62%]を70%に向上する。 学校運営に参画しているに対する肯定率[83%]を80%以上で維持する。 (2)「教育活動を中学生や保護者に積極的にアピール」に対する肯定率[87%]を85%以上にする。 (3)研究授業の実施。生徒授業アンケートの振り返りシートを作成し、PDCAサイクルを確立する。 生徒向け授業アンケートの全項目平均値[3.42]を3.2以上。 校内研修に関する肯定率[75%]を80%に、ミドルリーダー育成に関する肯定率[80%]を70%以上とする。 (4)「教育活動に関する悩みや疑問の気軽な相談」に対する肯定率[81%]を70%以上とする。ストレスチェックの総合判定の低下。	